

## 奄美大島宇検村における墓の共同化に関する文化人類学的研究

著者	福ヶ迫 加那
ファイル(説明)	博士論文要約 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701甲人社研第34号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00029564">http://hdl.handle.net/10232/00029564</a>

平成29年2月8日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 福ヶ迫 加那

学位論文題目

奄美大島宇検村における墓の共同化に関する文化人類学的研究

(An Anthropological Study on Communalization of Tombs in Uken Village, Amami Island)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を平成29年1月29日に実施した。まず、申請者による学位申請論文の内容説明の後、下記4名の審査委員から論文内容についての質疑と、申請者による応答を行った。

申請者の論文は、奄美大島宇検村の全集落の約3分の2の集落において1970年代から共同納骨堂の建設が集中的に見られることから、地域社会が墓とどのように関わっているのかという問題を、共同納骨堂の建設過程、維持管理と利用状況などを踏まえて、対象地域の社会的コンテクストに基づいて文化的、社会構造的、経済的観点から考察した事例研究である。

最終試験では、まず、先行研究における論文の位置づけや問題設定、集落ごとの建設、非建設の過程と要因の整理が妥当なものと評価された。また、最も高い評価を得たのが、申請者が宇検村の14の全集落で行った現地調査により得られた一次資料の人類学的価値と、その緻密な議論の展開であった。

その一方で、宇検村の事例をどこまで一般化可能かという問題や、墓の耐久性を求める集落の発想の背景に何があるのかという問題、さらに、「共同化」の問題等についての議論が不十分で曖昧さが残ったため、委員から質問がなされたが、これらに対しては一定の水準を満たす回答が得られた。

以上により、博士(学術)の学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 学術

最終試験結果  合 ・ 否

試験委員

主査 (氏名) 桑原孝樹

副査 (氏名) 渡辺芳郎

副査 (氏名) 萩野絨

副査 (氏名) 西村明